

# 日中研究交流：国際ワークショップ 「科学技術進歩と人間社会」 Japan-China Academic Exchange: International Workshop “The Progress of Scientific Technology and Human Society”

2023年11月4日、上海社会科学院にて国際ワークショップを開催した。上海社会科学院と共同でワークショップを開催するのは、2021年12月以来、約2年ぶりのことであった。前回はオンラインでの開催であったが、今回は両国でのコロナ禍による社会的制約が緩和されつつあることもあり、念願の対面開催が実現した。当研究所では、2020年度より「科学技術の発展と人類社会の変化」をテーマとして掲げ、文理融合・分野横断という視点から新たなアプローチを試み、様々な研究活動を行ってきたが、今回の国際ワークショップは、上記のテーマに関する研究活動の具体的展開の一つとなった。現在世界においては生成AIやビッグデータを活用した情報技術など、デジタル分野での技術が急速に発展しており、そのような新しいテクノロジーの利用及び規制に関する国際的な枠組みも構築されつつあるところである。「科学技術進歩と人間社会」をテーマとした今回のワークショップは、当研究所のテーマとして掲げている科学技術と人類社会の関係、とりわけ科学技術と人類の幸福及び平和の関係について考える上で非常に意義深いものとなった。

今回のワークショップには、本学及び世界問題研究所から岑智偉所員（経済学部教授）、中谷真憲所員（法学部教授）、荻野晃大教授（情報理工学部）、志賀浄邦所員（文化学部教授）が参加し、それぞれの専門分野から研究報告・討論を行った。上海社会科学院からは3名の研究者による報告があった。包蕾萍研究員は「デジタル社会の構築：価値志向と政策実践」、計海慶研究員は「人工知能時代に調和のとれた人間と機械の関係を構築する」、史習隼副研究員は「身体の苦しみと魂の喜び——キリスト教における楽観的思考」と題する研究報告を行った。本学からは、岩本誠吾所長の「人工知能（AI）の利用と規制——よりよい社会を目指して——（日本の場合）」と題する研究報告を中谷所員が代読したのち、荻野教授が「Well-beingと感性——人を幸せにするための情報技術：感性工学」、志賀所員が「人は快・不快をどのように知覚するのか？——仏教思想から見た Well-beingと幸福——」というタイトルで研究報告を行った。人工知能（AI）から、デジタル社会、感性工学、宗教に至るまで発表テーマは多岐にわたったが、ワークショップが終了した時点で、実は多くの報告に通底していた「新しい時代における人間のウェルビーイング（幸福）」という新たなテーマが浮かび上がってきた。

今回のワークショップを通じて、参加者は科学技術の進歩と人間社会の変化に関する最新の知見と

洞察を共有することができた。同時に、ワークショップでの両機関の研究者同士の草の根的な対話と交流は、二つの機関の友好関係と学术交流を一層深めてくれた。今後も世界問題研究所と上海社会科学院とは相互に連携しつつ、科学技術の進展に関する世界の最新の動向を見据えながら共同研究を進めていく予定である。